



# 八王子盲学校だより



令和7年2月発行 第10号

東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

## 『ライフパフォーマンスを伸ばす』

副校長 能瀬圭介

オリンピックの金メダリストで現在、スポーツ庁長官の室伏広治さんが新聞の取材の中でこんなことを言っていました。「医療は正常性や安定性を目指して予防をする。スポーツはちょっと危ないこととして能力を向上させる。人生 100 年時代。何事もないように生きるだけでなく、困難を乗り越える力(ライフパフォーマンス)も大切だ」と。

ライフパフォーマンスとは、すなわち困難な状況に陥ったとしてもそれを乗り越える力であり、それぞれのライフステージにおいて、環境の変化や心身の変化を感じ、心身の機能を適応させながら個々の課題解決や目標達成に向けて発揮できる力のことを意味しています。

本校は幼稚部から専攻科までの方が通っていますが、ライフスタイルは年齢層によって異なります。児童期は子供自身が能力に応じて学び、人間関係を広げながら、自分の要求を訴えるスキルや知識・技能を習得する時期です。子供の自我は将来の自立(支援を受けながら自立も含む)のためにとても重要で、自我の芽をつみ取らないように関わっていくことが大切です。また、他の人と比較されることや、周囲からの要求に応えられなかったことで自信を無くしてしまう場合があります。「大丈夫、あなたはあなたでいい」というメッセージを一人一人の状況に合わせた方法で大人は伝え続けていくことが求められます。

青年期(中学部以降)は大人として自分らしさを構築していく時期です。具体的には親離れしていくための生活スキルを習得したり、様々なサービス(ガイドヘルパー、ホームヘルパー、グループホームなど)の利用を通して社会参加のスキルを磨き、生涯にわたって学ぶ機会を得たり、自己理解を深める時期です。そして自分らしい暮らしができるのが最高です。壮年期に向けて家族の決定よりも本人が決定したことを優先させられると素晴らしいです。私たち支援者が児童期までのようにずっとこれまでの関係でいると、子供は自分の気持ちを表現していることに意味がないと感じてしまいます。本人の意思をどのように汲み取り、日常生活や社会生活に反映させていくかが問われているのです。

本校には視覚障害者として立派に自立してお手本となるべき生徒や教職員が多数在籍しています。こうした人材をフルに活用して時には話を伺いながら、ライフパフォーマンスの向上に努められたらと考えています。

### 《スポーツ部の2つのチャレンジ》

今年度、スポーツ部は2つの大きなチャレンジがありました。ひとつは全国大会出場です。主力メンバーが抜けて、技術・意識にばらつきのあるメンバーが練習を通して、一つ一つできることを増やし積み重ねていきました。なかなか結果の出ない時間が続きましたが、全国大会の舞台ではチーム全体が集中して、粘り強く試合を進め、チームで2勝を挙げることができました。頑張った先には楽しいことがある経験、そしてかなわなかった悔しさが昨夏の財産になりました。

2つ目のチャレンジは、仮設校舎への移転です。今までであることが当たり前であった体育館がなくなりました。9月からは、関東陸上大会へ向けて、陸上大会に参加しない選手も屋上や富士森競技場を使って練習、トレーニングを続けました。フロアバレーボールは八王子特別支援学校の体育館を借りての活動になりました。陸上のトレーニングを経て再開した練習では、体力がついたことで基本プレーが正確になってきました。また、限られた時間の中で精いっぱいバレーをやりたい気持ちが強くなり、移動や準備をお互いに声を掛け合って行えるようになってきました。練習環境や時間の制約は大きくなりましたが、それを補うチーム力が育っています。これからも体育館がないことを言い訳にせず、「やりたい！」気持ちを大切に、チャレンジを継続していきたいと思います。

主任教諭 川嶋 拓

### 《理療科の進路について》

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の国家資格を活かした就労を目指します。施術者としての技術はもとより、社会人としてのコミュニケーション能力が採用の決め手になっています。また、視覚に障害があることによって、できる事とできない事を自覚することが大切です。工夫や努力をすることでできる事を増やしていき、できない事は、援助依頼をすることが必要となります。

主な進路先は以下の4つです。

- ①開業:あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師には開業権があり、自分の治療院を開設することができます。
- ②ヘルスキーパー:企業内で従業員の健康管理や疲労回復のためにマッサージなどを行います。
- ③特別養護老人ホーム:入所者に対するマッサージ、機能訓練、日常生活の介助・安全管理を行います。
- ④訪問マッサージ:寝たきりや歩行が困難な方の自宅でマッサージを行います。移動が難しい視覚障害者に対しては、患者宅、または室内まで送迎を行っている事業所もあります。

生徒のみなさんは、卒業後の進路を見据え、計画的に進路活動を進めていきましょう。

主任教諭 永井 伸

### 《校舎改築の進捗状況》

昨年10月から旧校舎の解体工事が始まっています。仮設校舎の窓が二重サッシになっていることもあり、幼児・児童・生徒の学習活動に大きな影響は生じていません。しかし、日中、旧校舎の周辺を通りかると、作業に伴いかなりの騒音や振動を感じます。近隣にお住いの皆さまの御理解と御協力に感謝するとともに、御迷惑をお掛けしていますこととお詫びいたします。

解体工事も始めは内装解体が行われていましたが、新年を迎えてからは、管理棟(南大通り側の建物)の解体作業が本格化してきました。現在は、体育館が解体され、その場所に建設事務所が建てられています。東側にあった食堂も撤去され、解体作業が順調に進んでいます。予定では、3月までに管理棟の解体が終わり、4月からは校舎棟(校庭に面していた建物)の解体が行われます。

本校のホームページに「校舎改築情報」を掲載しておりますので、併せて御覧いただけたら幸いです。引き続き御理解と御協力をよろしくお願いたします。

校舎改築委員会(主幹教諭 野村 利己)